

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第100回「FRB次期議長指名と金価格急落について」

1月30日トランプ大統領はFRB次期議長を指名しましたが、この指名によりNYダウが一時600ドル超下落するとともに、「金」先物が▲11%下落、「銀」先物が▲31%下落しました。今週はこの金融市場の動揺についてお伝えします。

～トランプ大統領 FRB次期議長を指名～

1月30日トランプ大統領は元FRB理事のケビン・ウォーシュ氏をFRB次期議長に指名しました。

ウォーシュ氏は2006年2月に史上最年少の35歳でFRBの理事に就任しました。その後、辞任した2011年3月までFRB理事を務めました。辞任の理由は、リーマンショック時の対応として当時のバーナンキFRB議長が推進した大規模な金融緩和策（市中銀行が保有する国債を買い、資金を潤沢に供給する金融緩和策）に対し、中央銀行の役割から逸脱しているのではないかと危機感を抱いたためであるようです。この時から、市場参加者はウォーシュ氏を金融引き締め傾向のタカ派姿勢の人物と評価していました。

今回のトランプ大統領の次期議長指名によって、市場参加者はタカ派色の強い議長となり、『政策金利の引き下げ回数が抑制され、資金供給量の縮小が行われるのでは』との懸念を強く抱き、直近までに積み上げていた資産（貴金属の先物買いやドル売りのポジション）を一気に売却・清算したと考えられます。その動きによって、今年に入り29日まででおよそ23%弱上昇していた「金」先物（NY商品先物 期近限月）は30日に11%強下落しました。この下落率は、1980年以来の大きさとなりました。（裏面グラフ1を参照願います）また、昨年10月頃から急騰していた「銀」先物価格も1日で31%強の下落となりました。

～今後の市場動向～

このように資産価格に急激な動き、特に急激な下落には注意すべきです。借金をして投資している（信用取引）投資家が追加の証拠金を支払えなくなり、投資資産を強制的に売却される事態が発生し、資金繰りがたたなくなる場合があります。ただ、今回の商品先物市場の急落が市場全体の急落につながることはないと考えています、それは今年が米国中間選挙の年だからです。これまでのトランプ政権の行動を見ていると、金融市場の急落を非常に嫌っています。そのため、トランプ政権は金融市場が動揺した場合、あらゆる政策を駆使してその動揺を治める行動をとると思います。

万が一、市場が動揺した場合には冷静に対処することが重要と考えます。

2026/2/2記

